



有松まちづくりの会役員会 (6月22日)

中濱会長より5月15日に行われた総会について、多くの出席者の元、無事に終わられたことへの謝辞がありました。また、年々減少傾向にある会員の増強に本気で取り組もうとの話があり、皆で共有しました。

イオンタウン有松のアジア・アジアパラ大会の事務局勤務の方々に有松を知ってもらえる機会を作りたいとの意見が出されました。

7月25日に実施される有松小学校PTA主催の花火大会に昨年同様、子ども縁日や交通整理などで協力をするようになりました。



まちの風景:松柏園

有松小学校トワイライトルームで笹飾りつくり (6月18日)

「有松を知ろう」の講座で、岡家住宅の前・東海道に飾る笹飾り作りが行われました。3年生以上の40名程が参加し、かわいい願い事が80枚程笹に飾られました。短冊には「旧あずまやさんでいただいた色画用紙やクレヨン」「絞りまつりでのうちわ作り廃材の絞り染め和紙」が使用され、SDGsに心掛けた取り組みでした。

笹飾りは8月3日まで展示予定。

土日公開している岡家住宅(10:30~15:30)には短冊が用意されています。希望者はお立ち寄りください。



NHK総合まるっと まるっとラフ旅 有松来訪 (5月25日)

旅人はSKE48の鎌田菜月さん。有松あないびとの会の加藤明美さんが浴衣姿の鎌田さんをご案内。

「有松で絞りが始まったきっかけは?」「人気になったわけは?」など、東海道沿いを趣ある建物群を散策しながら、時には広重の53次の浮世絵を使って分かりやすく説明されていた。

絞会館では職人歴37年の小林喜代子さんの竜巻絞りの技を食い入るように見つめていた。

旅の最後は絞り染め実習。早恒染色で教えてくださったのは増田薫さん。てきぱきとした説明がわかりやすかったようで、雪花絞りの出来栄えに大満足の鎌田さんの様子が画面に溢れていた。

旅人 鎌田さんに関わった皆さんの「有松絞りの♡ラブ教えて!」の返答も興味深かったので誌上市場で紹介します。

加藤さん「それぞれの時代の人々が技を繋げてきてくれたこと」

小林さん「何もないところから素敵なものができるところ」

増田さん「新しい絞りを考えること」

絞りまつり直前に放映され、集客に大いに役立ったのでは。



加藤さん(左)・鎌田さん・小林さん(右)



増田さん(左)・鎌田さん

広沢市長と山上実行委員長によるテープカットでまつり開幕。7日は少雨でからくり実演が一部中止となったが、多くの方が楽しんでくださった。近年は2日間で9万人が訪れるなど、年々来訪者は増加。嬉しくもあるがあまりの混雑ぶりに、「年間を通して来てくれたら」との思いもある。

8時頃には駅改札口から多くの方が出て来る。浴衣姿の方がとても多い。「人目を気にせずに着られるのがいい」との声も…昼には軽食会場も絞会館売店も人であふれていた。飲食・休憩スペースが十分でないため、まつり期間中には各所にキッチンカーを設けるなど対応に腐心されているが、追いついていないようだ。

近年の絞りの特徴を表す言葉として「行列」と「体験」を挙げたい。店内の混雑を回避するため、入場制限のお店が多い。それで行列ができる。中には整理券を渡すところも…「7時半に来たけど配り終えていた」と残念がる声。人気店是对應に苦慮しているようだ。

また、お得な価格で求めたいばかりでなく、絞りそのものに興味を持って来る方も増えている。体験希望者に満足していただけるよう、多彩な絞り・染め体験が用意されていた。写真は流し染め体験。子どもでも取り組めるよう工夫されていた。職人による絞り実演を食い入るように見ている人、話しかける人も…

もちろん、有松の歴史・町並みに関心を寄せる人向けには町並みツアーが用意されていた。卒論準備のため東京から見た大学生、子育て中の親子等々。

《いいじゃん！有松 特設展示》 於：有松小学校体育館

名古屋グランパスと取り組む世界に風を起こす「SHIBORIプロジェクト」の展示と限定トートバックの販売(写真左)。及び、トートバックで使用した知多木綿の展示販売と、昔ながらの織機を使った手織り体験が行われていた。記者が訪れた時、知多木綿について大変丁寧に説明してくださった。



注目 絞りまつりではたくさんの学生・生徒さんの活躍が目につく。いくつかを紹介したい。

半田商業高校(写真左)の生徒さんは、生徒考案のスイーツを販売。授業の一環として。また、名古屋情報専門学校(写真右)の皆さんはまつりの縁の下の役割を果たしてくださっている。交通整理やゴミの片付け等、「先輩に続き、有松に貢献したい」と黙々と役割をこなしていた。活動と共にその想いに感謝。



おいしいスイーツどうぞ



おはようございます



寄稿 布袋車大幕復元新調事業の経過報告

布袋車大幕復元新調事業のPRと経過報告を兼ねて、今年も有松絞りまつりにて特別展を開催しました。当日は新正面幕と旧左面幕の展示のほか、復元新調についての解説パネルを展示しました。

解説パネルは、昨年制作したもの(後面幕と左面幕の復元新調の様子や京繻きょうぬいについての解説等)に加え、正面幕の復元新調の様子や直近の左面幕の復元新調の様子、布袋車の刺繡大幕の下絵を手がけた山本梅逸(やまもとばいいつ)の紹介、布袋車の見どころ紹介のパネルを追加。名古屋市教育委員会文化財保護課や(株)川島織物セルコンの方々によるご協力のもと解説パネルの制作を進めることができました。

左面幕はこの夏の完成を予定。左面幕の完成後は、右面幕の復元新調へ移行します。全ての刺繡大幕の復元新調が完了するのは2029年を予定しています。

【 復元新調事業 経過報告 】

- 2022年 第Ⅰ期 正面幕完成
(鳳凰と応龍の尾・雷文図)
- 2023年 第Ⅱ期 後面幕完成
(漢詩文・雷文図)
- 2023年～ 第Ⅲ期左面幕制作中
(応龍と霊亀・雷文図)
2026年夏完成予定
- 2026年～ 第Ⅳ期右面幕制作へ
(麒麟と鳳凰の尾・雷文図)
2029年完成予定



新正面幕(写真左)と旧左面幕(写真右)



有松町家ライブ アンデスの風 ～ここに響く音色～ (6月20日) 於:寿限無茶屋



グループ・サヤ・アンデスによる有松での初コンサート。南米フォルクローレの名曲に30人の聴衆は1時間ほど酔いしれていた。初めての方もいたが、多くは愛好者。演奏家も聴衆に混じっていたとか。どこか懐かしくも壮大な旋律・心に響く音色に、体を揺らしながら聴き入っていたようだ。会場は明治時代の趣ある座敷。障子越しに見える庭を背景にした演奏は、"コンドルは飛んで行く"など馴染みの曲が演目に加えられていることとと相まって、町家ライブならではの雰囲気醸し出していた。

次回は 暑さが収まったところの 9月下旬から。Jazz演奏 をこの会場で行うとのこと。

落語会のお知らせ 7月26日(日) 15:00 立川志の八独演会 竹田嘉兵衛商店三番蔵ギャラリー

再来！ サックス侍 有松で演奏

(6月12日)

5月の山与遊歩道での演奏に続き、今回は絞会館の駐車場を会場に名古屋観光特使のサックス侍さんが、45分間魅惑のサックスを奏でました。

当日は鈴木緑区長、飯田名古屋コンベンションビューロー理事長も駆けつけ、東京・大阪はじめ遠方からも有松に来てくださった皆さんにご挨拶がありました。また有松バージョンのステッカー(右写真)が用意され、ファンの皆さんはご満悦の様子。どちらから聴きにきてくださったのかの来場者アンケートも実施されていました。



文芸と有松 第1回 内藤 吐天 (とてん) 山村幸雄

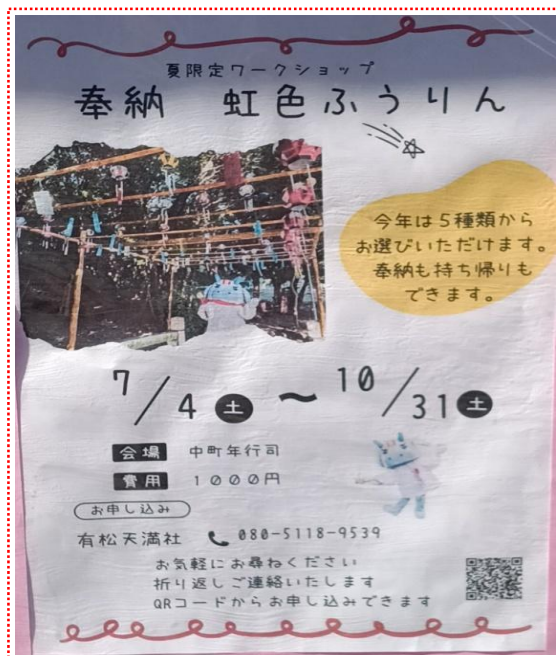
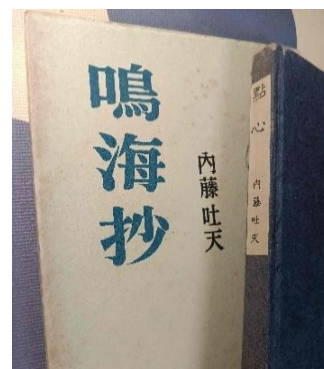
本名内藤多喜夫(明治33～昭和51年)は東大医学部薬学科を大正13年に卒業した。東京薬学専門学校教授を経て昭和18年名古屋薬学専門学校長となり、愛知県鳴海町に転居した。昭和24年名古屋薬科大学学長となり、のち名古屋市立大学初代薬学部長となる。定年退職後、名城大学教授となり薬学部長に就任。

吐天ゆかりの地は鳴海に2ヶ所。1つは「滝の水公園」(緑区篠の風3)。名古屋薬学専門学校跡で、伊勢湾台風の廃材で埋め立てた公園。2つ目は成海神社境内の芭蕉句碑。芭蕉が鳴海で詠んだ「初秋や海も青田の一みどり」、吐天が揮毫した。「内藤吐天年譜」によると、昭和35年に建立。

他に、生まれ故郷大垣市の八幡社境内に吐天句碑が建立されている。

吐天は趣味多く、薬学研究教育にとどまらず『吐天』と号され俳人としても高名である。俳誌『早蕨』を主宰するかたわら、中日俳句作家協会を立ち上げ名古屋の俳壇を牽引した。自由に詩の世界を求めるロマンチックな作風で、多くの人に親しまれた。『鳴海抄』『点心』『臘八』などの句集を出している。

Amitieアミティエは、内藤吐天のお孫さんのお店である。



中町年行司 (絞りまつりでの様子)

催事・行事予定

7月13日(月) 18:00 有松町並み相談会 有松コミセン

7月25日(土) 15:00 子ども縁日 絞会館バス駐車場

有松まちづくりの会

7月25日(土) 19:30 有松小学校花火大会 有松小学校PTA

7月26日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

7月27日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会は新規会員を募集しています。(年会費1000円)

詳しくはホームページ又はお近くの会員までお問い合わせください。

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。

「有松かわら版」をカラーでご覧いただけます。



まちの風景 祇園寺

《編集後記》

有松への学びを深めるにつれ、江戸時代から育まれた「文化」ともいふべきこの地ならではの財産に気づかされる。絞り、山車、重厚な建物群とともに残していきたい。